岷江入楚

遊生 才十五

特別
へ 12
4604
14

712
4604
14

小汀文庫

蓬生

廿七歳

源氏君逆境ニ陥リ給フ事　栖居ル事

寛中荒廃ス事　以上光源氏君十九歳ヨリ二十六七歳迄ノ事ニテ有ベシ

源氏帰京ス事

青海波ノ舞ノ事　桜花ノ時ニテ有ベシ

故院ノ御八講ノ事　桜花ノ時ニテ有ベシ

姫君ノ乳母ノ侍従ノ事　大貳ノ方ヲ向ル事　いと幼き時

廿八歳

冬月源氏君数日籠リ給シ次ニ何ノ遠生ノ文ニ作リ給ヒシ事

月ノ内源氏君ノ入道生霊ノ事

遠生ノ歌お遠生ノ文又ハ桂庭草ノ事

丁生源ニ京院東院ニ由ノ事

いと高年ノ事ニ横ノ歌ノ事

以前ノ日ニ二ツ七夕ノ事

ノ夜ノ月ノ事

ろくしノ日ノ事

ノ夜ノ月ノ事

ノ夜ノ月ノ事

但シ光ノ五位ハ六月ノ頃源氏ノ事

48 3683

をそしのぶ中之宮の来ハ九月乃山まてのまとゝいてゝ宮月と九月とあらそひふしてゝ遠生宮を
と並をなら二とゆゝれ行ゝ為ゝ来ゝ
はかくようけるゝ　紀行　江をと尚侍ゝ
不用

遠生並ハ三年河内の老名但遠ゝゝり有て遠生ト
てゝゝる河ゝゝ
河ゝゝ
ゝ
ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

白氏文集山宅詩の心

けりを[illegible]

[illegible]

[illegible]

寺 梟鳴松桂孤 蔵昌周菊最[illegible]

荒[illegible]の心 松樹園よ梟孤[illegible]

[illegible]

[illegible]

樹神 順和名 粉神 内典 本魍山鬼魍 玉篇 木霊延喜式 物精

寺 [illegible]樹[illegible]

成[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

貧窮問答歌 東歌の行方わかり
私に行りて用ゐる人 [illegible]
同貧窮問答歌 貧女常陸の国の歌 東歌の行方 [illegible]
[illegible] 行方 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[

私はいとけなくまかりなりし又母陸奥
のもとにまかりて有にしのるをけうふと伝聞をと
ふるさと桜扇をそれをとりあつめとあるこや
ゆうはうらうらくうものあはれまり
未摘の太郎ふるをいとひてまるる法師
伝聞ふるいとけなきのこと
未摘君の乳母の女
あくかれそぬ　えとせず　秋院へまゐらんかまりは
あくかれそぬ　えとせず　秋院へまゐらんかまりは
かしこ　面白くまり
かしこ　秋院
（の寿）
（の寿）
の秋院　秋院
いひあ　未摘のおとこ
寺陸奥の小方い未摘のいかとおもふ
文化のおとこ

ひとあり　つる
未摘のをとこ　おとこ
（寿）
未摘のもれ　ふるの一向ふ　花　花　未摘　通　しの
（花）
て伝聞　伝聞　人　人　伝聞　人の　ふる　ふる　ふる
文化の　方　方　ふる　ふる　ふる　ふる
伝聞　親の
人　ふる　ふる
未摘　ふる　ふる　ふる　ふる　ふる
通　ふる
ふる　ふる　ふる　ふる　ふる
未摘　ふる　ふる　ふる　ふる　ふる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人よりはじめて
末積のいとなみ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

西京にて七月十五日まで出でたれば
末橋の山中に
ちいさき巻
岩ねにそそぐ水のうみさびしのちいさき巻にあらねども
私に引き寄せて京木の考にわかるべきなり
ちいさきからまて
弄いやしき人にまでの心
国ぶみしるしもさきしめ猿よりもしつ
或物に添物なるべしとて民代の原
ちいさ　ちいさき国音にうつる
伝物的に物語なるべしとて
白河の天皇四今帝に第に物語
松のもとに代言ふ（後）の足いのつ
定に引き寄せ物語引き寄せ代言
者なるべしと（心）何ぞ度なる考羅日記度
ちいさきの下臈の歌ト歌

私物語の紅葉を用ひ
物語に物語
めにて行くものし
ちいさの見もくへきあり
伝の西京にてさうあ
末つ山の中ちいさ
門の外に
世中に
私伝の物語
の上にやうに
人しれずあるべ
末橋のさま
ちの武のわれる
木橋の物語
かりけりとをつ
如是人難度の

末摘の父母うへのもとに
おこの陰うへまた
さうまるうまとどうかうしかるべきふぜい
ねがはりうちうち
末摘をねんごろに筑紫にいとなむ
世のうきめをみてわびぬるうへ　琴をのん
世のうきめをみてわびぬるいとはるかに
みうしなひあるべきなれば
同じくはれをあそばすべきなり
方中みとそむうきみ　夫中田会
天竺の小方末摘のみもとにとくいたる
むけしきなりしうち
さうさうにたうてしうちにおもひ
かうばしくもあるをおもひ
行幸をかの天竺の御いとぐりに
行幸の天竺の姫君末摘
うちうちうち

うちうちうちいてうちてたてまつりたてまつる
行幸の夫よりまたくるまさて末摘をとりてまつり
すえんぐうまつるまさて末摘をもとりのぬけ
うのうちけるふ
末摘の紅梅をあのむかのあるし
ひかりのうち
是より末摘の宮をうまわりうちうち
おのれよりまさ
御のさかをもまうしうち
わうの月のひかりてうくらいたるとあるを御覧のうち
うち末摘のうち果報とてあるを御覧のうち
あやしうちうち
家居のうの荒うちうち
うちうちうちれのいぬ
うち山人のあうのうのうちを
末摘の奥の山を訓諸のかうりあるうちうち

毒色いろくなる
ろくこそし
いかりさはをくりかへすれはさるなるる
はるとも年月の間
いとかさつるかるる
りつるものるとも常陸文のさはし
明るる中流のはるめたる八
はけふるのまれみそ八幡おられるまる
おるはそのをはふ源標寺に祈る月る八幡しかを
の祈又間之三寺たて見所之又保平位天平明年乃
二月こい祈所天位祈る色相てるく八幡と若
天模の並天第こ相位山並の祈平兵祈おるる宗
て年保光り年るる並生並二関屋や保切年
るる寅を一るるるる時代おは出る屋屋老保
位四寅の次天年常陸仏と保しけるるて保平山
指るあひるるまるるもの

十月のゆしをつくしの老るあり
ゆるるるしまあ色八幡のるる月所見月所見青八幡
祈所老色以八幡天第おるるるるわ八幡
るかるるるおるる祈るるるるるるるるるる
寺るるるるるるるるるるるるるるるるる
保かるるるるるるるるるるるるるるる
海おるるるるるるるるるるるるるるる
三るる檀る間て段の
老るり保るて九災保おるる保老るるる
けるる海太の 生佛国五さ
かるるを保さ川の
佛菩薩るるて保るるる保所老る仏会る色
まかるる行かるるるるる保所老る仏会る色
いりるのにるり
五月朔日見 煩悩 泉生 命
法華院云初月云別 休位約口月之共假名煩悩供猶

銑使の体見に指五利使の体命法使に持名人に
体記に唯悪花経八百五三万亦未有二万歳の五世[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

煩費し

私成敗国々に法度の事

大武の小方より

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世中にてはなりがたきものなれば
俗ふるまひをしてすなはちこれを
ろれを中さしてはてるまでもの
てはくれおつれのあはもちやすと
こうして東稿をわるしろ嘲嘆をきに
きに俗世といつたにくみへて
りまにはたらるものつて
ものをわりつるけてををるもはすをるをあと
るるをつてくるんはをつるれくをてをるをと文わ
れつけてをくるるをはを
うるをけるくを
東稿のこころをあるをねをゆ
いをうれるをるれと
東稿のをるをこうるつるをを宿ををいまるをて
るをとをつるくのるをかをを
げををるる

又は小方の紙にけををうにを書をいをもるれをるる耶
保を想出するはいをれをとるの（ををはるの見の出を）
ひをを（をのをてるる）
常陸の古文ををの又作りみをてをのをてるり
るんなをを又あげるをいるを
るるをの常ををの出をを
或ををるるるをわるを中あやをりをを
りをのをを　是をのをを
かをれをるるるをみををを
をのれをのをるるるをるるをを
れをををれをの物をのれをの
れをををるるをるるをを
ぶをを　寿ハフトヨム　ツウニハ北ス
ムををくるををるを
東稿のををるるをををのを
ををををのををををりをる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いづくのものといふこと
うまれしめのひと
産生れし乳母のもとにまくいたる乳母の頂傷
主膳のめしと伝信の母こしかりもの光とをハやく成
しらべてゐること　寺伝信の母れ
かしいるさるものありも
主膳の和尚のもとのものこと
うりすてゝうまをとりうれと
うるるものをいたるものもはとりうと
ふいるもの
主膳先のさ海
この人も　伝信もトやうるふ
まれゆいうこと
伝信の母の速言を見すてゐるをしかなと
きとをとれ物の縁をもすりて伝をかひひるさ海
うし此の母ひろこと

如年隠忍ものとうしてうるものして見すてな
るものうるひすふうすしくたるこ
むうるてもやうゆるのるむけれ狂とけてうるん
むものの和尚伝信とうるをとそ又ろうをいるや
むハ和尚うるこ或男海をいはうは伝信よみうち
伝信集ものゆく人ようるもやうて
まふ母ものをあてむうる
かゆくり人ようるすて
ものうるてしをうるこのうるものをれ和尚とうれ
むものの和尚うる伝信のもこ霧旅のこ
うるこ和尚のもの
十餘のよ中ようものよ旅りの遊伝ぬて放石面宮中
遠ようる霧旅のうるて死人書付誓曰吾為門宗成
ちうしとうり者のうるを好よとそ物吾吳つあて和尚
みれうる伝和尚そこい放に様人録遠のものと伝摩と

[illegible]

花間祖席離人醉水上陶帆夜日行　元稹

道祢　智　楊　唐韵云楊音楊漢詩抄云多先公乃賀義

論語云李氏旅於泰山注旅祭名　御今の字如し

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

（保元八年）二月ニ内裏ニ[illegible]

卯月ニ[illegible]花[illegible]

私[illegible]

[illegible]

又私[illegible]標[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ちゝはゝそをはなれさせて
老人の詞
若のもとへ
姫君ありとゝへて行ゝみまくほしゝとゝ
ゝれいのふるゝ
老人の返事
行ゝ行ゝ行ゝのおもゝのかわゝとゝ
きてゝりゝ
姫君のおもゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ
姫君をゝゝかけまおゝゝゝ
りまつるゝ
荒ゝゝゝゝ行ゝゝゝれゝ姫君狐ゝゝゝゝ
ゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
新楽府古塚狐を　大尾先ヲ作リ長紅裳ヲ
妻ヲ乞ヒ対ス狐ノ尾ヲ礼ノ裳ヲ物ニ比スルノ

男と見て狐の変化やゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ変すれ　男ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ姫君日
かゝゝゝゝゝゝゝ
吉備のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

私いまだ古人[illegible]

[illegible]

[illegible]

此笠を用ひ
又のまうけてもいとむくふることを　ほう徳
ものあれば色ゝ又之人のうちなとをすれあるを
なをやしひるをうのんん
うちまゝをみる人ゐるう
日そうしかわがうりあとゝ
姫君ゐりとも
海のわすれそめまゝ末橋のふりくるうつる
けしそうれ書れ文とゝろくるけまをつくれ書
夢ゝ紅ゐうれ　松ゝりよ
義小方のゐまゝ作うゝくれの夢ゝいけにうや雅
てきあなをとそきうりかゐうきんかゝりくて義ゐ
からのれうゝ
的皆香亭櫃や
のすくまうる作本丁
天寛の小方れまうゝ西ゝ本丁とれり

いりあて
海の内へはうして
そうゝうのゝそれあてゝうり歌
是ゝり海の何
いまゝてゝうゝ見ゝこゝつる
海の夢ゝ見れゝりつれゝ末橋のかゝうりみゝ西れ
れをゝむゝふゝてゝゝれゝつゝゝ夢ゝ見ゝの
うゝうゝれへゝ
松ゝれれれれゝのゝ三橋
例月日ゝゝの山ゝうれゝ
心三橋の山ゝれ松ゝゝれ
例義の松ゝゝゝれゝれゝれれゝれれ
ゝ葉松ゝれゝれゝれゝれゝれゝれ
ゝれゝれゝれゝれゝれゝれゝれ
寿松ゝれれれれゝれれれれれれれれれ
成松ゝれれ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

園童児恵成人園林恵喬木

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まことに殊の外色
大武士方のそまつれるはそ
月りかたにてり
みりしるきはつ
わるりくるる
そぐれしのこと
或はたらくるゆく
りしよりわ
はそとふものうすある
是のまるやつはきうのみるめしりは長ひくるゆく
是のまるやつくるとはいは古ちみて来てのみ第ちやつく
是のまるやつくるとはいはかりのまるとをあわりかたはあす
知ちは和りの孫ちかりは文ちひくるる見
文のあれるはるはいるるものあれるるりは文ちひくるる見
ゆるる
私はりのへはるはいは打るるるさきと形も
しるくるるりは

りうるるりは法こりうるるをありけるを
仏第一爻ちるるのみるるは奥又みるるはるるるす
神仏はるも法こりうるるはるるるる奥共のはるるく
てあれはいのうるるひはるるをるるるるるる
るるるあるけるはるる九孫はは同るる
仏第はるる一爻をはるるるるるるるる顔叔のは男のは奥又はるは
るるは遠きりうるるは第神はは云れはは仏はるるるるるれ
はるるるるるるは音法爻のは第は役はるるや
私はるるるるは八十こりうるるるるるるるるるるるるり
はは顔叔のは奥男のは心はるるは顔叔のは男
るるは中はるのはは仏はるるるるるるるるるるるるるるる
のは心るるは第一爻るるは同るるるるるるるるるるるるるる
は円第るは八十はるり 私美はるるは法こりうるるるるるるるるるるるるるる
奥顔叔のはは人はは代りのはるるそは男のるるるるるるるるるるるるるるる
るるは法のるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
古人は同顔叔のは第は法こりうるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

[illegible]

毛詩曰昔者顔叔子獨処室婦人趨而至顔叔子入内之而使執燭
暴風雨至而室壞婦人趨而往之男子同戸而不納婦人自
放乎且蓋盡壞屋而徙之自以為避嫌不害矣若其
害者宜如魯人然魯人有男子獨処室者隣之釐婦又独処
室夜暴風雨至而座壞婦人趨而往之男子同戸而不納婦人自
牖与之言曰子何為不納我乎男子曰吾聞之男女不亲不同席
今子幼吾亦幼不可以納子婦人曰子何不如柳下惠然逼不退
門之此聞人不称其礼焉男子曰柳下惠固可吾固不可吾將
以吾之不可学柳下惠可乎孔子曰欲学柳下惠者束有似於是（孝伯篇）
外事毛詩史記等吾以為室欲堂下之事必行於外之者仏図
人家過すくん仏図ハ堂人家ハ堂也老若列之坐ハ向三佛
菩薩ノ住所也那室家矣若今物語堂宇室宇を云誤也
道魯之鈍之又曰任文選中有一般見しら主動

或紙ニ云ハ中間ての物語とて人物ありて深く物語ハ物語
ニ云ハ云貧家の上そ大情机丁のうしろをこまやめて
おきるのわりなくるくて[illegible]破義しら
私ニこの物語のうしろ[illegible]
の此後して物語すんのうちに物語ふかうう
て仏今ふをとをもとをもとをもとをのあるをきのうしろ
わるこの此間ふをものうしろ
ひるみこの物つうう
これより東橋の物を深のみなん
うるうもてをうう
風流のうるすくくあれまん物語をもとを
仏うもうう仏くくうをとをうくくうう
此めうつしこうるうぬる
花おの家の前もうや
のあれうもうもうつしの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なすてとなかくりかへる
芝雪(夫)
芝雪(に)の心
芝雪なのかくりのあ者歌　しる幻
かくらいて
何ものしらせ
きこゑまくまを
れと二位上出ふるくなくらくとしへる歌
ちうびくちう何をてきこゑまくちうを出さるや